



旧深沢トンネルの正面

Katsunuma Tunnel Wine Cave (formerly Fukasawa Tunnel), a symbol of Katsunuma wine culture

## 勝沼のワイン文化と歩んできた「勝沼トンネルワインカーヴ(旧深沢トンネル)」 山梨県甲州市

Special Features / Conversion of civil engineering facilities



日本工営株式会社／コンサルタント国内事業本部／事業企画室  
熊井彩乃(会誌編集専門委員)  
KUMAI Ayano

特集  
土木施設の転用

### 旧深沢トンネル

山梨県甲州市にある旧深沢トンネルは、1997(平成9)年までJR中央本線が使用していたトンネルであるが、時間短縮や防災強化に向け、新たなトンネルができたため廃止され、2005(平成17)年にJR東日本から地元の勝沼町に無償譲渡された。

そして、勝沼に点在するぶどうとワインの歴史にまつわる近代産業遺産を観光資源として活かすべく2004(平成16)年に策定された『勝沼タイムトンネル100年構想』の一部として整備され、「勝沼トンネルワインカーヴ」として転用されたのである。なぜ、この構想を構成する要素の一つとなったのであろうか。

### ぶどうとワインの歴史

山梨県は言わずと知れた日本一のぶどうの産地である。その生産の歴史は長く、勝沼町では日本ワインの原料ぶどうの代表的な品種「甲州種」の栽培が、奈良時

代もしくは鎌倉時代に始まったとされている。スペインやポルトガルから日本にワインが伝わったのは室町時代とされ、その後1549(天文18)年にフランシスコ・ザビエルが鹿児島を訪れた際には、キリスト教を布教した



写真1 勝沼のぶどう畑

い地域の大名にワインを献上した。こうして日本にワインは広まっていったが、当時日本国内ではワインは生産されていなかった。

その後の明治時代に脱亜入欧を目指して政府が打ち出した「殖産興業」の施策の一環として、日本国内でのワイン生産が始まったのである。

1870(明治3)年には山梨県甲府市に「ぶどう酒共同醸造所」が、1877(明治10)年には勝沼町に日本初の民間ワイン会社である「大日本山梨葡萄酒会社」が設立された。同社は有能な人材を育成するため、2名を本場フランスに派遣し、1年半で醸造技術と醸造施設、ブドウの品種について学ばせた。帰国後、本格的なワイン醸造に取りかかったが、販売ルートを確認できなかったことや本格的なワインが当時の庶民に馴染まなかったなどの問題が立ちだかため、1886(明治19)年に同社は解散する。

### 宮崎光太郎とワイン醸造

大日本山梨葡萄酒会社の株主でもあった宮崎光太郎は、同社解散後に設立した甲斐産葡萄酒醸造所で、ワインの品質改良と販路の開拓に努めた。品質改良の面では一定の成果があったものの、当時の日本では本格的なワインよりも、輸入ワインに甘味料を加えた甘味ぶどう酒が広がっていたため、本格的なワインを広めたい同所の売り上げは芳しくなかった。その後、勝沼町の私邸内にあった清酒蔵に設備を整え、ワイン醸造所に改造した。そこで宮崎は日本にワインを広める様々な活動を行うことになる。

大黒天を用いたワインラベルを作成し、1891(明治24)年に商標登録。当時薬用としても使用されていたことから医科大学にも販売を取り付けた。また、1894(明治27)年の明治天皇御大婚25年の祝典では、甲斐産葡萄酒100本を献上するなど宣伝効果は絶大であった。さらに、本格的なワインが日本人に馴染まないという事実を受け入れ、甘味ぶどう酒の製造にも舵を切った。この時に開発した数種類の甘味ぶどう酒の売り上げにより、同所の経営は持ち直した。

### 甲府盆地に到達した中央本線

宮崎がワインを広める様々な活動を行う最中、甲府盆地に初めて鉄道が到達した。1903(明治36)年に開通した中央本線である。この開通に合わせて建設されたのが、初鹿野(現甲斐大和)と勝沼(現勝沼ぶどう郷)駅間に位置する深沢トンネルである。

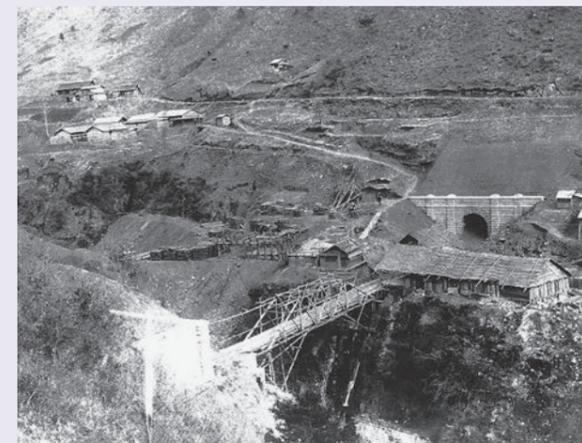


写真2 1901年頃の深沢トンネル西側坑口

本州の中央部を通り、東京～名古屋を結びつける鉄道敷設計画が立案されたのは1892(明治25)年であった。この中の東京～甲府間については二つのルート案があったが、軍事上の目的から八王子より甲州街道に沿って小仏、笹子の険を貫き甲府に出る案が採用された。1896(明治29)年から八王子以西の敷設工事に着工し、1901(明治34)年に上野原まで、翌年に大月まで、翌々年の1903年には甲府まで開通した。新宿～八王子の甲武鉄道を国が買収し、1905(明治38)年には新宿までの直通乗り入れが可能になった。

山々は急峻で、中央本線の鉄道敷設計画当初からの課題であった。笹子、深沢、大日影などに代表される数々のトンネルは、大量の湧水の影響で困難を極めた工事だった。当初の掘削は手掘りで行われ、のちに削岩機が導入された。延長1,106mの深沢トンネルは、1899(明治32)年12月には無事に先進導坑が貫通し、翌年11月に竣工した。単線のトンネル構造は、4,656mの笹子トンネルや隣接する1,368mの大日影トンネルなども共通し、ピラスター(壁柱)に支えられた風格ある石積みの坑口は、明治期の典型的な坑門のデザインである。また、使用されたレンガは山梨県内で生産されたものであった。

### 中央本線が勝沼にもたらした変化

中央本線の開通によって山梨のぶどうとワインの運搬手段に革命がもたらされた。それまで、馬に乗せて甲州街道を東京まで3～6日かけて運搬していたが、中央本線が開通すると、これをわずか半日でできるようになった。また、多様な品種を大量に市場に運べるようになったことから、勝沼はぶどうの名産地として多くの人に知られるようになった。このことが契機となって、勝沼のぶどう畑の面積は飛躍的に拡大していった。



写真3 宮光園



写真4 宮光園内の醸造樽

開通当初は信号所にすぎなかった勝沼駅は、鉄道の利便性が認知され、地域住民の要望から1913（大正2）年に新駅として営業を始めた。これが今の勝沼ぶどう郷駅である。

中央本線開通後、宮崎はワインの生産拡大を図るために第二醸造所を建設し、1912（大正元）年に醸造所と隣接するぶどう園を観光施設「宮光園」として開園した。ぶどう狩りとワイン工場の見学を行う、当時では画期的であった。今に続く勝沼における観光事業の礎を築いた。

一方で鉄道がもたらした土木技術は、ワインづくりにも活用されている。深沢トンネルなどに用いられたレンガ積みアーチ構造物の技術を応用し、1898（明治31）年に半地下式のワインセラーが完成している。このように、中央本線やその開通に伴い建設された深沢トンネル等は

勝沼におけるワイン文化の成長に貢献してきた。

### 勝沼タイムトンネル100年構想

勝沼には旧深沢トンネルの他にも多くの近代産業遺産があり、1915～1917（大正4～6）年に建設され、甲府盆地を水害から守ったことで安定したぶどうの生産を可能にした勝沼堰堤や、ぶどう畑から勝沼駅にぶどうを運搬するために1914（大正3）年に架けられた祝橋（現在のコンクリートアーチ橋は1931（昭和6）年完成の3代目）など、ぶどうとワインとのつながりを持つものが多い。勝沼町ではこれらを観光資源として地域活性化に活かそうと、2004（平成16）年に『勝沼タイムトンネル100年構想』が策定された。翌年、勝沼町は合併して甲州市となったが、この構想は甲州市に引き継がれた。

当時の様子をほぼそのまま残した深沢トンネルは、こ

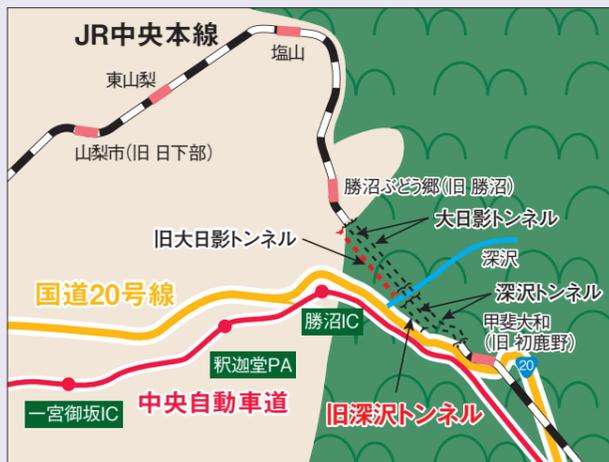


図1 旧深沢トンネル位置図



写真5 レンガ積みアーチ構造技術を応用した半地下式のワインセラー（封鎖中）



写真6 現在は歩道橋兼水道橋となっている3代目の祝橋



写真7 両側にワインラックが並ぶ勝沼トンネルワインカーヴ

の構想の一部として整備がすすめられたのである。

### 旧深沢トンネルと観光

トンネル内は年間を通して気温が6～14℃、湿度45～65%に保たれるため、ワインを健全に長期熟成し、付加価値を高めるワイン貯蔵庫に生まれ変わるようになった。整備にあたってはレールと枕木を撤去し、床はコンクリート張りとした。壁面や坑口のレンガ、花崗岩は当時の面影を残したままとしている。2005年に「勝沼トンネルワインカーヴ」として生まれ変わった旧深沢トンネルには、720mlのワインボトルを300本収納できるワインラックが322ユニット設置され、全てのユニットが個人オーナーやレストランと契約済みである。

ワインカーヴに足を踏み入ると、とても涼しく、奥に向かって上り坂になっているトンネル内に設置された各ユニットにはオーナーこだわりのワインが所狭しと並ぶ。手前の個人オーナー向けユニットの先は、企業向け大型収納ユニットとなり、ここにも多くのワインボトルが保管されている。山梨県は台風や地震などの災害に襲われる危険性が低い土地柄であることも、ワインにとって良い環境なのだろう。ワインカーヴの入り口には管理棟兼観光案内所が設置され、事前に連絡すればワインカーヴ内が見学できる。

勝沼トンネルワインカーヴの正面は大日影トンネルだ。このトンネルも構想の一部として整備され、2007（平成19）年には当時の線路や水路をそのままに遊歩道として生まれ変わったが、2016（平成28）年に実施された健全度調査にて漏水や経年劣化への予防対策が必要



写真8 勝沼トンネルワインカーヴの管理棟兼観光案内所



写真9 遊歩道として開放されていた当時の大日影トンネル

とされたため、残念なことに閉鎖されている。

勝沼フットパスの会によって開発されたフットパスルートを辿るツアーも開催されている。甲州市には全国最多となる33ものワイナリーがあり、甲州ワインは世界最大の国際ワインコンクールでも金賞を受賞。今もぶどうとワインの歴史を紡いでいる。ぜひ勝沼を訪れて、ぶどうとワインの歴史に触れてみてはいかがでしょうか。

#### <参考資料>

- 1) 『ぶどうとワインのまち：近代産業遺産によるまちづくり～勝沼タイムトンネル100年構想～』2004年 勝沼町
- 2) 『勝沼町誌』勝沼町誌刊行委員会 1962年 勝沼町役場
- 3) 『写真で見る ふるさと勝沼』勝沼町文化協会 1998年 勝沼町
- 4) 『ワインカーヴになった明治の鉄道トンネルー勝沼トンネルワインカーヴ（旧深沢トンネル）』野田滋 2006年 土木学会誌
- 5) 『ワインと先人の知恵を楽しむ「旧大日影トンネル」』Consultant264（2014年7月）号「土産の香」近藤安統 一般社団法人建設コンサルタンツ協会
- 6) キリン株式会社ホームページ 歴史人物伝 日本のワインのバイオニアたち (<https://www.kirin.co.jp/entertainment/museum/person/wine/01.html>)

#### <取材協力・資料提供>

- 1) 甲州市役所観光商工課
- 2) 甲州市勝沼ぶどうの丘

#### <図・写真提供>

- 図1 株式会社大應作製 P18上、写真6 山上英之  
写真1、3、4、8 熊井彩乃  
写真2 参考資料3)  
写真5、7、9 塚本敏行